

揖斐農林事務所の普及活動状況 令和7年2月21日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■農業担い手リーダー等 「令和6年度いび農業活性化研修会」を開催

2月13日、揖斐農林事務所および揖斐郡農業振興協議会は、「いび農業活性化研修会」を谷汲サンサンホールで開催し、担い手リーダー、生産者団体、関係機関など110名が参加した。この研修会は、知識習得や地域の情報交換により農業者の経営改善および地域の活性化に繋げることを目的に毎年開催している。

今回は、「農業における気候変動による影響と対策について」をテーマに、農業普及課からはいちごの高温対策についての活動事例を、JAいび川からはキャベツの収益向上に関する取り組み事例を報告した。また、岐阜大学環境社会共生体研究センター教授から「温暖化の影響と適応策」と題して講演いただき、熱心な質疑応答が行われた。温暖化の課題に対して「必要な対策は何か」、「今後どのように行動するべきか」を参加者1人1人が考えるきっかけづくりとなった。



【活動事例発表】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■かき ぎふ清流GAP受評支援

大野町かき振興会は、令和4年度の新選果機導入を契機に毎年度会員3名の「ぎふ清流GAP」の受評を推進しており、これまでに6名が受評した。

令和6年度は、年度当初から準備を進め、2月10日、12日、17日、19日に会員4名が「ぎふ清流GAP」を受評した。

評価は、評価員2名により書類、帳票の記録の確認、ほ場、倉庫（肥料、農薬、燃料、資材）、休憩場所等の状況の確認が行われた。

2～3週間後に評価結果が通知される予定で、農業普及課は是正項目について、農業者と協議しながら是正措置を進め、安全、安心で環境に配慮した持続的な農業の実現に向け支援を行う。



【農場評価の様子】

■茶 美濃西部製茶組合講習会 ～JGAP認証を目指す～

2月16日、美濃西部製茶組合が生葉出荷者を対象とした講習会を開催し、18名の出荷者が参加した。

同組合は令和8年産からのJGAP認証を目標としており、第一段階として、出荷者6名が国際水準GAPガイドラインに準拠した「ぎふ清流GAP」を受評しており、順次GAPへの取り組みを拡大している。

農業普及課からは、「ぎふ清流GAP」評価規準に基づいた管理点と適合基準への対応について、整備した記録用紙への記入に加え、受評に際し必ず必要となる救命救急講習の受講、健康診断の受診について説明した。

今後も「ぎふ清流GAP」からのステップアップとして「JGAP認証」への円滑な移行により産地力向上に向けた支援を行う。



【栽培講習会の様子】

■大豆 採種圃種子の発芽試験を実施

令和6年産の揖斐郡の大豆種子（品種：フクユタカ）は、大野町採種圃生産組合と池田町の農業法人が約30haで生産し、27,570kgの収量となった。8月下旬以降の害虫（ハスモンヨトウ等）の多発生と開花期以降の高温・干ばつにより、減収、収穫遅れのほ場があり、計画数量を下回る結果となった。

種子は発芽率が保証された優良種子であることが必要なため、発芽試験を1月末～2月上旬に行った。発芽率の低下が心配されたが、試験結果に問題はなく、令和7年産用の種子として利用される予定である。

農業普及課では、課題となった害虫被害の軽減のため、JAと連携した防除対策を講ずることで、次年度の安定生産に向けた栽培管理の支援を行う。



【発芽試験の様子】

■夏秋なす 高温対策に向けた研修会を開催

2月4日、いび川夏秋なす生産組合は、JAいび川担い手サポートセンターで高温対策の管理についての研修会を開催し5名が参加した。

夏秋なすは、夏季の高温の影響により収量と品質の落ち込みやハスモンヨトウによる被害が拡大し、栽培が難しくなっている。

研修会では、農業普及課から県内の他産地の高温対策の取り組み事例を紹介し、参加者で有効な方法について検討し、今後ほ場の土壌の乾き具合を確認して灌水管理を行うこととした。

農業普及課は、引き続き有効な高温対策について情報収集を行い、生産者へ周知し、収量と品質向上に向けた取り組みを支援する。



【研修会の様子】

■いちご 優良農家視察

揖斐川町いちご組合は、R6年度に新規就農者が加入したため、新規就農者の知識習得や技術向上を目的に、2月4日に県内の優良農家へ視察を実施した。組合員4名とR7年度加入予定の研修生1名が参加した。

視察では、優良農家の生育状況や管理方法を実際に見ながら情報収集や活発な意見交換ができ、新規就農者のみならずベテランの生産者にとって栽培を見直す良い機会となった。

農業普及課は、関係機関と連携し、農業者の生産力の向上に向けた支援を行う。



【研修会の様子】